

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型通所事業所 しらうめ		
○保護者評価実施期間	令和7年12月25日		～ 令和8年1月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児童発達 2名 放課後等デイサービス 4名 生活介護 24名	(回答者数) 児童発達 1名 放課後等デイサービス 3名 生活介護 13名
○従業者評価実施期間	令和7年12月25日		～ 令和8年1月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 13名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重症心身障害児・者病棟で経験を積んだ看護師が複数で対応している。重症心身障害児・者や医療的ケア児・者の受け入れが可能である。	病院内にあるため、病院と連携できる。小児外来、病棟、療育指導室(その他の福祉事業、短期入所、長期入所) リハビリ、栄養管理室等の受診日としらうめの利用日を併用利用していただくことで、送迎の負担の減少や、ご本人の状態像の経過をトータルで把握できるよう調整している。	医療的ケアが必要で在宅で過ごされておられる方の把握と案内
2	多機能型事業所(生活介護・児童発達・長期休暇のみ放課後等デイサービス)であり、年齢層又は状態像が様々であるため、ご本人の希望に沿った個別性の高い療育活動を提供している。	同じ季節のテーマの絵画であっても、年齢に応じて素材や使用する物品、手法を変えて、発達と年齢、状態像を考慮しながら作品を作り出す等の工夫を行っている。 異年齢で構成されているからこそ生まれる刺激や交流を意識して、集団での療育を展開している。	院内外からゲストを呼んだり、行事等を企画し、年齢問わず、地域や社会とのつながりがもてる取り組み
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	新設して移動したりリハビリ訓練室を改装した事業所 廊下との寒暖差がはげしい。 独自の入浴施設がない。	改装した場所である為、耐震強度の関係上、工事等が難しく、費用もかかる。	備品や物品購入で補える点は購入する。 設備投資費用の不足
2	地域との交流、事業所としての外出が難しい	医療度が高い方が多く、感染や移動のリスクが高い。また注入や吸引、カフアシスト等の呼吸状態を安定させるスケジュール等が決まった利用者もいる。 また、定期利用者に加え、短期入所併用利用者等、毎日の利用者も様々で医療ケアも様々というように、個別性が高い。	遠くの外出は難しいが、院内での交流等を行う。 城陽支援学校との交流を行う。 リモートでの交流を行う
3	病棟からの応援スタッフへの情報の共有の徹底	病棟と通所の情報を共有するためや、スタッフの体調不良等により、部署間でのスタッフの交流を行っている。 申し送りと振り返りの時間で共有を図り、引継ぎ事項等を個人ファイルや電子カルテに記載、更新を行っている。	療養介助専門員や男性スタッフの配置等、スタッフの配置の見直しの検討